

## 【Competent highトラブルシューティング】

現象	原因	対策
形質転換後のコロニー数が出ない、少ない	DNAの液量が多すぎる	コンピテントセルの液量の1/10以下の液量のDNA溶液を添加します。
	DNA量が多すぎる	使用する組換えプラスミド量は、10ng程度までにします。
	プラスミドのサイズが大きすぎる	10Kb以下のプラスミドを使用します。
	ヒートショックの条件が合っていない	42°C、30sec. 実施します。
	(DH5αの場合)タンパク質が発現していて、宿主の生育が阻害されている	DH5α以外の宿主に変える。
	-80°Cで保存している	液体窒素で保存します。
形質転換後に増殖が認められない	選択用抗生物質の量があていない	アンピシリンは50~100μg/mL、カナマイシンは10~50μg/mLの濃度になるように培地に添加します。(テトラサイクリン、クロラムフェニコールでのセレクションはお勧めいたしません。)
エレクトロポレーションができない	製品のバッファー組成が合っていない	他社のエレクトロポレーション用コンピテントセルをご使用ください。